

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

■ めざす学校像

「健全な市民を育成し、中河内を活性化する有為な人材を輩出する中堅校として、地域から厚く信頼される学校」をスローガンに以下の5点をめざす。

- ①「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科
- ②「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科
- ③「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科
- ④「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科
- ⑤「校内組織のシステム化と活性化」で教職員が躍動する総合学科

2 中期的目標

今後の3年間を、学校のシステムや教職員の意識改革の結果を出す3年間と捉え、以下の5点を学校の中期目標とする。

1. 「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科

- (1) 中退率の減少 …平成 23 年度に中退率が半減し、その後も減少傾向にある。中高連携の緊密化やスクールカウンセラーの活用等を通して中退防止に努める。
※今後3年間で中退率府平均 1.7%以下を目標とする。
- (2) 進路未決定者の減少 …現状は、進路未決定率が 4.9%（浪人生を除く）と大きく減少した。学校経営推進費を活用した「未来創造室」の活用と新たに作成した「樟風マップ」に基づき、10年後の自分を見据えたキャリア教育を実践して生徒の進路意識を高める。
※進路未決定率 4.9%（平成 27 年度）を今後も維持し平成 30 年度も 5%以下とする。
- (3) 就職決定者の増加 …「未来創造室」の活用とキャリア教育の充実によって、就職指導を一層充実させる。
※就職内定率 98.6%（平成 27 年度）を平成 30 年度には 100%に上昇させる。とくに就職試験一次合格率を 75%以上とする。
- (4) 中堅私立大学進学の実現 …「未来創造室」の活用と補講、勉強合宿等の充実により、進学希望者をサポートする。
※平成 28 年度以降も毎年 10 名以上の中堅私立大学合格者を輩出する。

2. 「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科

- (1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる …重点的に取り組むことは、①授業規律②欠席・遅刻指導③服装・頭髪指導④あいさつの4点である。
※遅刻者総数については、平成 28 年度から現状の 1 割減を毎年推進し、平成 30 年度には現状の 1/2 以下をめざす。平成 27 年度は 59.0%だった生徒向け学校教育自己診断の全般の項目に関する肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 30 年度には肯定感 70%以上をめざす。
- (2) クラス活動で鍛える …体育祭・文化祭等の行事を通じてクラス活動の活性化を行う。
※生徒向け学校教育自己診断において平成 27 年度は 61.6%だった「クラス活動は活発である」の肯定感を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 30 年度には肯定感 70%以上をめざす。
- (3) 生徒会活動で鍛える …毎日の挨拶運動や学校行事の企画・運営など現在の生徒会執行部の活動を継続・強化していく。
※生徒向け学校教育自己診断の自主活動に関する項目の肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 30 年度には肯定感 70%以上をめざす。
- (4) クラブ活動で鍛える …平成 27 年度のクラブ加入率は 42.3%と前年度より上昇した。平成 28 年度からも体験入部の工夫や積極的な勧誘によって新入生のクラブ加入率を高めていく。
※クラブ加入率を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 30 年度には、50%以上をめざす。
- (5) 地域貢献で鍛える …幼・保・小・中・大だけではなく、東大阪市子育て支援センター・公民館・瓢箪山商店街・ロータリークラブ・農協等とのコラボレーションを促進する。また、縄手北ふれあいネットワーク、瓢箪山まちづくり協議会、枚岡中学校区地域教育協議会、東大阪市まちづくり意見交換会などに積極的に参加することで地域貢献を推し進める。
※生徒向け学校教育自己診断の地域連携に関する肯定感の平均を毎年 3 ポイントずつ押し上げ、平成 30 年度には 70%以上の肯定感をめざす。

3. 「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科

- (1) 授業で鍛える …生徒向け学校教育自己診断の学習指導に関する肯定感の平均が平成 27 年度は 56.4%という状況を踏まえ、研究授業の活性化、授業アンケートの活用、公開授業、教員同士の授業観察等により教員の授業力の向上をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断における学習活動の肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上向上させ、平成 30 年度には 65%以上の肯定感をめざす。
- (2) 6系列で鍛える …6つの系列のさらなる個性化を促進する。また、系列での地域貢献を推し進めるとともに、外部講師等を積極的に活用する。
※生徒向け学校教育自己診断の各系列での「授業が自分のためになっている」という項目を最低 60%以上、平均 70%以上をめざす。

4. 「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科

- (1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する …学校経営推進費を活用してスーパー・インクルーシブ・ルームを創設し、インクルーシブ教育を実践するとともに、「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事等においてインクルーシブ教育システムを構築する。
※生徒向け学校教育自己診断の共生推進に関する肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上上昇させ、平成 30 年度には 70%以上の肯定感をめざす。
- (2) 人権教育で鍛える …同和問題や在日外国人問題など人権HRを充実させることで生徒の人権意識を育む。
※生徒向け学校教育自己診断の人権教育に関する肯定感の平均を毎年 3 ポイント以上上昇させ、平成 30 年度には 70%以上の肯定感をめざす。

5. 「校内組織のシステム化と活性化」で教職員が躍動する総合学科

- (1) 校内組織のシステム化と活性化 …首席連絡会、学年主任会議、将来構想検討委員会、運営委員会、職員会議の連携を強化し、有機的に機能するよう工夫する。また、教職員の意見のボトムアップに努め、各種会議と分掌・学年間が情報を共有して課題の解決にあたることできるように校内組織のシステム化と活性化を図る。
※教職員向け学校教育自己診断において、学校経営の肯定感の平均を毎年 3%ずつ引き上げ、平成 30 年度には 70%以上の肯定感をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成28年11月実施分〕	学校協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>○年間遅刻者数の半減、頭髪・服装違反の一掃、授業規律の確立など、生徒の学校生活の様子は昨年度に比べ格段に良くなった。これらは教職員の熱心な取り組みの成果である。</p> <p>○学校教育自己診断の提出率は、生徒はH27年度の92.6%から88.4%にやや減少したが、保護者はH27年度の40.8%から49.4%へ大きく上昇した。教職員は3年連続100%であった。</p> <p>○生徒においては、ほとんどの項目において肯定感が減少した。特に自主活動や地域連携、進路指導、人権教育の項目の減少率が高い。実際には生徒会活動や地域連携、進路指導などの教育活動は昨年度よりも充実しており、数字に表れていないのが残念である。</p> <p>○保護者においては、肯定感が上昇した項目は約3分の1にとどまった。多くの項目で昨年度と大きな変化はなかった。分類別でみると、進路指導や地域連携、校内美化で肯定感が上昇した。</p> <p>○教職員においては、約2分の1の項目で肯定感が上昇した。分類別でみると、全般、学校経営、学習指導、進路指導、地域連携、人権教育、教育相談、情報提供で肯定感が上昇した。</p> <p>○今後も引き続き、生徒指導の徹底を図りながら、授業で生徒の学力を伸ばして多様な進路希望を実現していく必要がある。</p> <p>【学校経営】</p> <p>○全体の肯定感の平均は56.5%でH27に比べ1.9%上昇した。</p> <p>○校長の学校経営理念の明確化は83.8%、リーダーシップの発揮については73.5%で肯定感がやや減少した。学校運営方針共有化のもとで、さらなる校長のリーダーシップの発揮が求められる。</p> <p>○各種会議の有効な機能については50.7%と肯定感が12%上昇した。学校運営への教職員の意見の反映は50.7%と肯定感がやや上昇したが、教職員が意欲的に取り組める環境に関しては40.9%、各分掌や各学年間の連携については39.4%と肯定感が低くなっている。今後も教職員が意欲的に取り組める環境を整備していく必要がある。</p> <p>【学習指導】</p> <p>○生徒においては、全体の肯定感の平均が3.8%減少した。「授業は自分のためになっている」と「学習評価についての説明」については肯定感が60%を超えているが、「授業はわかりやすく楽しい」「教え方の工夫」「自分の考えをまとめ発表する機会」の項目の肯定感は40%台と低かった。</p> <p>○保護者においては昨年度と大きな差異は見られなかった。「評価の適切さ・公平さ」「通知表のわかりやすさや工夫」「評価に対する納得」に関しては肯定感が80%を超えており、学習評価に対する保護者の評価は高くなっている。</p> <p>○教職員においては、10項目中6項目で肯定感が上昇した。「教材の精選・工夫」「学習指導の工夫」については肯定感が90%以上となっている。「指導内容についての教科横断的な話し合い」の肯定感が17.7%上昇した。「ICTの活用」や「到達度の低い生徒に対する学習指導」は肯定感が50%台と低く、課題が残った。</p> <p>○今年度も「授業で勝負する学校」をスローガンに教員の授業力向上を大きな目標として掲げた。3年連続でパッケージ研修支援Ⅱを行うとともに、各教科1名による学力向上委員会を立ち上げ、アクティブ・ラーニングの実践に取り組んだ。授業規律に関しては昨年度より一層改善したので、今後は「魅力ある授業づくり」が大きな課題である。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○教職員の熱心な指導により、昨年度に比べ遅刻者数が約50%に激減した。イエローカード運用の厳格化により懲戒件数は増加したが、短いスカートや「はにわスタイル」などの服装違反もほとんどなくなり、学習環境は一層よくなった。</p> <p>○生徒は、イエローカードの運用の厳格化など、生徒指導の基準を厳しくしたため、7項目中6項目で肯定感が減少した。その中で、イエローカードに関する肯定感が微増した。</p> <p>○保護者に関しては、「いじめや暴力のない学校づくり」に関する肯定感が増加したが、「イエローカード制度」に関する肯定感が大きく減少した。イエローカードの運用を厳しくしたことに原因があると思われる。生徒指導全体に対する肯定感の平均は73.4%と高くなっている。これは、本校の生徒指導が保護者に理解されていることの表れであるといえる。</p> <p>○教職員の生徒指導に関する肯定感はずっと減少した。全体の肯定感の平均は72.1%と高くなっているが、「組織的な対応体制」や「問題行動防止のための早期指導」、「生徒理解」に関する肯定感が60%台と生徒指導の他の項目に比べてやや低かった。</p> <p>○今後も現在の流れを大切にしながら、生徒と向き合い、より高いハードルを設定して生徒を引き上げる生徒指導を継続していきたい。</p> <p>【自主活動】</p> <p>○肯定感の平均は、教職員や保護者では昨年度と大きな差異はなかった。生徒においては生徒活動やクラス活動、体育祭・文化祭などの学校行事に関する肯定感が大きく減少した。しかし、実際には体育祭や文化祭などの行事の内容は年々充実してきている。</p> <p>○生徒会が中心になって行事の企画や運営を主体的に行い、「ルールを守りながら行事を楽しむ」という本校の伝統を築いていくことが必要である。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○生徒においては全項目で肯定感が減少した。特に「学校は進路指導に熱心だ」「進路指導室（未来創造室）は利用しやすい」に関しては肯定感が10%以上減少した。しかし、実際には本校の進路指導は</p>	<p>第1回（6/18）</p> <p>1 保護者からの意見書の提出状況について：なし</p> <p>2 本校の現状と課題について説明</p> <p>○過去5年間で年間遅刻者数は約77%減少、進路未決定率は約78%減少、4年生大学の進学先の変化など、本校は大きく進化している。</p> <p>○平成28年度入試について</p> <p>○今年度の具体的な取り組みについて（教員の授業力向上、生徒指導の徹底、進路指導の充実、インクルーシブ教育、システムの活性化）</p> <p>○学校経営推進費の支援校決定について</p> <p>3 平成28年度学校経営計画についての説明</p> <p>【進路指導の充実】</p> <p>○中退率の減少、進路未決定率の減少、就職決定者の増加、中堅私立大学進学者の増加</p> <p>【生徒指導の充実】</p> <p>○授業規律の確立、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導の徹底、挨拶の徹底</p> <p>【教員の授業力の向上】</p> <p>○パッケージ研修支援Ⅱを活用したアクティブ・ラーニングの実践、授業アンケートの有効活用、教員相互の授業観察の充実</p> <p>【人権教育の充実】</p> <p>○学校経営推進費を活用したインクルーシブ教育システムの構築、スーパー・インクルーシブ・ルームの創設</p> <p>【校内システムの活性化】</p> <p>○教職員が意欲的に働けるシステムづくり</p> <p>4 学校協議会からの意見・提言等</p> <p>【台湾の高校生との国際交流について】</p> <p>○今後も継続していくとよい。</p> <p>【授業力向上について】</p> <p>○パッケージ研修支援を有効に活用し、アクティブ・ラーニングを実践してほしい。教科の代表1名が研究授業行うのは素晴らしい。</p> <p>【生徒指導について】</p> <p>○今の状態をさらに継続・発展させるためにイエローカードの基準を厳しくしてハードルを上げることは良い。</p> <p>○学年間の基準を統一するためには学年集会が一番良い方法である。</p> <p>【進路指導について】</p> <p>○進路未決定率の減少は素晴らしい。</p> <p>○1、2年次のインターンシップや講演会は活発にした方がよい。</p> <p>○大阪府中小企業家同友会との連携を今年度も進めてほしい。</p> <p>【人権教育について】</p> <p>○インクルーシブルームを活用して、ユニバーサルデザインの授業実践に期待する。</p> <p>【校内システムについて】</p> <p>○入試の広報活動の活発化は今後さらに重要である。</p> <p>○人が変わっても揺るがないしっかりとした組織づくりをしてほしい。</p> <p>第2回（11/25）</p> <p>1 保護者からの意見書の提出状況について：なし</p> <p>2 授業見学</p> <p>3 平成28年度学校経営計画の進捗状況について校長より説明</p> <p>【教員の授業力向上について】</p> <p>○パッケージ研修支援を3年連続で実施、各教科でアクティブ・ラーニングの公開授業を実施、インクルーシブルームを創設、授業アンケートの活用、授業観察等</p> <p>○首席よりパッケージ研修支援Ⅱや授業力向上委員会の設置等について説明</p> <p>【生徒指導の徹底】</p> <p>○イエローカード運用の厳格化により年間遅刻者数は昨年度に比べ50%以上減少、懲戒件数は増加</p> <p>【進路指導の更なる充実】</p> <p>○教職員の熱心な指導や未来創造室の活用により進路未決定率は昨年度に比べ減少</p> <p>【人権教育の充実】</p> <p>○インクルーシブルームの創設により、ユニバーサルデザインの授業実践</p> <p>4 学校協議会からの意見・提言等</p> <p>【授業に関して】</p> <p>○昨年度に比べて、授業規律が確立されている。</p>

<p>年々計画的に行われるようになってきている。保護者の進路指導全般に関する肯定感は0.9%増加し、73.6%と高くなっている。また、教職員は進路指導全体の肯定感の平均は90.7%と非常に高く、半分の項目で90%を超えている。これは、教職員の熱心な指導が就職内定率の上昇や進路未決定率の減少などにつながっていることに要因がある。</p> <p>○今後も「樟風マップ」の活用や「未来創造室」の有効利用、大阪府中小企業家同友会との連携など、キャリア教育に力を注ぎ、生徒の進路実現を一層図っていききたい。</p> <p>【地域連携】</p> <p>○地域連携に関する肯定感には特に生徒で10.5%減少した。しかし、実際には地域清掃や地域の学校園との連携は年々進んでおり、生徒にその情報が正確に伝わっていないことが原因として考えられる。一方で、保護者は5.3%、教職員は2.1%、地域連携に関する肯定感が上昇した。</p> <p>○今後も中学校をはじめとする地域の学校園や企業等との関係を重視し、地域から信頼される学校づくりをしていきたい。</p> <p>【保健指導・安全教育・美化】</p> <p>○生徒においては健康相談や美化活動に関する肯定感が減少した。一方で、保護者は80.9%、教職員は74.2%と肯定感の平均は高くなっている。施設の老朽化などの問題もあるが、今後も日常清掃の徹底などを図っていく必要がある。</p> <p>【人権教育・教育相談】</p> <p>○人権教育に関しては、生徒の肯定感の平均が52.0%と9.3%減少した。保護者は1.2%減少して83.7%、教職員は4.7%上昇して66.2%であった。教職員の「同和問題や在日外国人問題・ジェンダー問題などを正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざすための学習となるよう工夫している」は12.0%、「感性を高める指導」については9.9%、肯定感が上昇した。</p> <p>○人権HR等の計画的な実施を通じて、様々な人権問題に積極的に取り組んでいくことが課題である。</p> <p>○教育相談に関しては、生徒・保護者はやや減少したが、教職員は4.9%増加し、教職員の肯定感の平均は85.8%と高くなっている。これは、スクールカウンセラーと連携し、教育相談が十分に機能していることの表れであるといえる。</p> <p>【共生推進】</p> <p>○肯定感の平均は、生徒においては6.8%減少、保護者は1.1%上昇、教職員は4.3%減少した。保護者の肯定感の平均は83.0%、教職員の肯定感の平均は84.6%と非常に高く、本校の共生推進教室の「ともに学び、ともに育つ」というコンセプトが浸透し、インクルーシブ教育が行われていることの表れであるといえる。</p> <p>○共生推進教室の生徒は部活動にも参加して公式戦に出場するなど、学校生活の中で鍛えられている。</p> <p>○新たに設置したインクルーシブ・ルームを有効に活用して、今後も大阪府のインクルーシブ教育のモデルとなるような実践に励んでいきたい。</p>	<p>○授業内容も興味深いものが多く、よかった。</p> <p>○授業と生徒指導は表裏一体、教室の授業規律の掲示物もよかった。</p> <p>○インクルーシブルームを有効活用して、ユニバーサルデザインの授業を実践してほしい。</p> <p>【生徒指導に関して】</p> <p>○遅刻の激減が素晴らしい。</p> <p>○イエローカード運用の厳格化は大変だが、頑張してほしい。</p> <p>【進路指導に関して】</p> <p>○未来創造室を有効活用してほしい。</p> <p>○就職未決定者などの指導を最後まで頑張してほしい。</p> <p>【今後について】</p> <p>○廊下等が暗いので、照明を明るくするなど、イメージ戦略も大切である。</p> <p>○H29入試の広報等も頑張してほしい。</p> <p>第3回（2/17）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保護者からの意見書の提出状況について：なし 2 分掌長、学年主任等、運営委員会のメンバーからの現状報告 3 学校教育自己診断の結果及び分析について校長より説明 提出率、学校経営、学習指導、生徒指導、進路指導、自主活動、人権教育及び共生推進教室等について 4 平成28年度学校経営計画及び学校評価について校長より説明 <p>【進路指導について】</p> <p>○進路未決定率の減少、就職決定者の増加、京都教育大1名合格</p> <p>【生徒指導について】</p> <p>○遅刻者数は約50%減少、イエローカードの運用厳格化により懲戒件数は増加</p> <p>【授業力の向上について】</p> <p>○パッケージ研修支援Ⅱの実施、授業力向上委員会の設置、アクティブ・ラーニングの実践</p> <p>【共生推進教室及び人権教育について】</p> <p>○インクルーシブルームの創設と有効活用、人権HRの充実と計画的な実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 平成29年度学校経営計画について校長より説明 <p>○中期的目標に「地域に開かれた魅力ある学校を目標に地域社会と連携・協力する」を追加</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 学校協議会からの意見・提言等 <p>【授業力向上について】</p> <p>○学校教育自己診断の結果から「わかりやすい魅力ある授業」が課題である。パッケージ研修を継続するとともに、授業力向上委員会を有効に活用するとよい。</p> <p>【生徒指導について】</p> <p>○遅刻の減少や頭髪・服装指導の徹底など、生徒指導の成果が出ている。今後も、学年集会などを通して生徒へメッセージをしっかりと送ってほしい。</p> <p>【進路指導について】</p> <p>○一次就職決定率の上昇や進路未決定率の減少等、熱心な進路指導の成果が出ている。今後も2年次のインターシップの増加や大阪府中小企業家同友会との連携を進めるなど、キャリア教育に力を入れていく必要がある。</p> <p>【人権教育及び共生推進教室について】</p> <p>○インクルーシブ教育システムを構築するために、インクルーシブルームを有効に活用して、ユニバーサルデザインのわかりやすい授業を実践してほしい。</p> <p>【入学選抜について】</p> <p>○入試に向けて、広報活動の活発化を図ること。</p>
--	---

府立枚岡樟風高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「18歳での進路実現」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科	<p>(1) 基礎学力の向上、中高連携の強化、教育相談委員会の活動などにより中退率を減少させる</p> <p>(2) 進路未決定者の減少</p> <p>(3) 就職決定者の増加</p>	<p>(1) 中退防止 ア. 毎月開催される教育相談委員会に中退防止の視点を加え、保健室来室状況から中退予備群生徒をリストアップし、原因克服に対応する。 イ. 家庭連絡、家庭訪問の状況、家庭状況の把握等を丁寧に行い、場合によっては社会福祉施設等との連携を行う。 ウ. 定期的な中高連携に留まらず、時期を逸しないように中学校との連携を強化する。 エ. 中退防止コーディネーターを教育相談担当(人権担当)に充て、校内の取りまとめと学校外への窓口を充てる。</p> <p>(2)(3) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. 学校経営推進費を活用した「未来創造室」を有効に利用して、進路未決定率を毎年3%ずつ減少させる。 ①「未来創造室」を活用して、進学や就職の資料閲覧やインターネットでの検索、進路相談をしやすいとする。 ②授業やHR等で「未来創造室」を活用して、生徒の意識改革や学力伸長をめざす。 イ. 「樟風マップ」(3年間トータルの進路指導計画)に基づき、進路指導部と学年、系列で連携したキャリア教育を行っていく。学校経営推進費を活用して教職員のキャリア教育研修や他府県のキャリア教育先進校の視察を実施していく。 ①1年次より、いろいろな分野の人を招いての講演を開催し、生徒の進路意識を高めていく。また、1年次は産業社会と人間で、前期のガイダンス指導を徹底しミスマッチをなくす。後期の系列別授業の強化を行い、2年次以降の系列での学習と目標とする進路のマッチングを行っていく。 ②2年次では、就職希望の生徒はインターンシップに、進学希望の生徒はオープンキャンパスに積極的に参加させ、進路実現へのモチベーションを向上させる。系列の学習を大学・専門学校などの学校外の資源を十分に活用しながら内容を充実させる。 ③3年次では、進路指導部と系列が連携した進路指導・就職指導を行い、今年度の面接指導・応募前職場見学参加指導を継続し、実績の向上をめざす。</p>	<p>(1) 中退防止 中退率の減少 2.0%未満 (H27: 1.8%) ア～エ. 教育相談委員会の開催回数 (H27: 7回)</p> <p>ウ. 中高連携の緊密化 (H27 出前授業2回、中学校での学校説明会3回、中高相互の授業見学3回)</p> <p>(2)(3) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. イ. ・進路未決定者の割合 10%未満 (H27: 4.9%) ・就職内定率95%以上(H27:98.6%) ・就職試験一次合格率 70%以上 (H27: 69.2%) ・インターンシップ参加者数 80人以上 (H27: 77人) ・大阪府中小企業家同友会との連携回数の増加 (H27: 3回)</p>	<p>(1) 中退防止 中退率は2.6%(H27: 1.8%)(△) ア～エ. 教育相談委員会を12回開催(H27: 7回)、1か月に1回開催。各学年より対象生徒についての情報が提供され、構成員で共有した。(◎) ウ. 出前授業6回、中学校での学校説明会5回中高相互の授業見学0回(H27: 出前授業2回、中学校での学校説明会3回、中高相互の授業見学3回)(○)、生徒による母校訪問。 【課題】次年度以降も、中学校訪問を積極的に行うとともに、中高連携の緊密化やスクールカウンセラーとの連携、教育相談委員会の活性化を通じて、中退防止に努めていく。 (2)(3) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. イ. 「未来創造室」の有効活用やきめ細やかな進路指導により進路未決定者が減少した。 ・進路未決定者の割合は 7.4%(H27: 4.9%)。(◎) ・就職内定率は100%(H27: 98.6%)。(◎) ・就職試験一次合格率は74.6%(H27: 69.2%)(◎) ・インターンシップ参加人数 50人(昨年度 77人)(△) ・大阪府中小企業家同友会との連携回数4回(H27: 3回)(◎) イ. 進路指導部2名がH26に獲得した学校経営推進費を活用して、3月に昨年度に引き続き他府県のキャリア教育先進校への視察を実施。 ①1年生では「樟風マップ」に基づき、樟風検定を行うなど基礎学力の充実に努めている。また、入学前の宿題を課し、R-CAPを新たに取り入れた。職業体験、業種別ガイダンス、進路講演会を実施した。 ②2年生では、新たに大阪府中小企業家同友会のキャリア教育支援授業を行った。 ③3年生ではきめ細やかな指導により進路未決定者が減少した。 【課題】次年度以降も、3年間トータルのキャリア教育を推進して生徒の希望する進路の実現を図り、進路未決定者数を減少させていく。</p>
	<p>(4) 中堅私立大学進学の実現</p>	<p>(4) 複数名の中堅私立大学の合格者輩出 ア. 「未来創造室」を有効に活用する。 ①進学情報の提供を活発に行う。 ②1年次から学力生活実態調査を実施し、個々の生徒の学力状況を把握し、状況に応じた指導を行う。 イ. 「樟風マップ」に基づき、進学講習やオープンキャンパス参加の拡充等によって、生徒の意識改革や学力向上をはかる。 ウ. 保護者向けの進学説明会などを経済的な面を含めて計画的に実施し、大学進学に向けて家庭の協力を得られるようにする。 エ. 夏期及び春期に勉強合宿を開催し、学習方法の習得や学習へのモチベーションの向上をめざす。 オ. 夏期休業中は、全学年で講習を国・数・英で開催する。必要に応じて社会・理科・小論文の講座も開く。</p>	<p>(4) 複数名の中堅私立大学合格 ア. イ. 大学合格実績 ・人文・理数系列及び農と自然系列において産近甲龍等の合格者輩出 (H27: 2名) ・情報系列及び工業デザイン系列において大阪工業大学・大阪電気通信大学合格者輩出 (H27: 3名) ・福祉・保育系列において大阪樟蔭女子大学・関西福祉科学大学合格者輩出 (H27: 1名) ・全系列において摂南大学・桃山学院大学・関西外国語大学等の中堅私立大学合格者輩出 (H27: 8名) ウ. 進路説明会回数 (H27: 2回) エ. 勉強合宿30名以上参加 (H27: 0名) オ. 夏期講習30名以上の参加 (H27: 14名)</p>	<p>(4) 複数名の中堅私立大学合格 ア. イ. 大学合格実績 ・農と自然系列より京都教育大学合格1名(◎) ・情報系列、工業デザイン系列から大阪電気通信大学合格5名(◎) ・福祉・保育系列から関西福祉科学大学合格2名、大阪樟蔭女子大学1名(◎) ・摂南大学合格1名、桃山学院大学合格6名など中堅私立大学合格者7名(○) ウ. 進路説明会回数2回 (H27: 2回)(○) エ. オ. 今年度も費用面を考慮して勉強合宿は実施しなかった。学校での講習を5日間実施した。参加者数15名 (H27: 14名)(△) 【課題】次年度以降は保護者向けの進路説明会の内容や時期を精選し、より多くの保護者に参加してもらえるように工夫する。 【課題】進学者向けの講習を計画的・継続的に行っていく必要がある。</p>

府立枚岡樟風高等学校

2. 「社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)」を育成する総合学科	<p>(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる。</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ ア. パッケージ研修や教職員研修を通じて、教職員の授業規律に関する意識改革を行う。 イ. 登校指導の充実や遅刻過多者への早朝指導及び放課後指導を引き続き徹底し、遅刻者を減少させる。 ウ. 服装・頭髪指導の学年間の基準の統一に努めるとともに、イエローカード制度の運用に関しての教職員の認識を共有化して、生徒の規律性の育成を図る。 エ. 問題事象について事例検討会を開催し、問題事象への対応方法や指導方針に関して教職員全体の共有化を図る。</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ ア～エ。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感3ポイント以上の上昇 (H27: 59.0%) ・遅刻者数 10%減少 ・懲戒件数 10%減少 (H27: 遅刻者数 3301) (H27: 懲戒件数 25 件) ・生徒向け学校教育自己診断「先生は協力して生徒指導に当たっている」の肯定感3ポイント以上の上昇 (H27: 58.5%)</p>	<p>(1) 授業規律は格段に良くなった。頭髪はもちろん、短いスカートやスカートの下にジャージを履く「はにわスタイル」などの服装違反はほとんどなくなり、遅刻数も激減して、基本的生活習慣が確立してきた。ただし、イエローカード運用の厳格化により、懲戒件数は倍増した。 ア～エ。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感 6.3%減少して 52.7% (H27 は 59.0%) (△) ・遅刻者数 51%減の 1625 (H27: 3301) (◎) ・懲戒件数は約 1.9 倍の 47 件 (H27: 25 件) (△) ・生徒指導の事例検討会の開催 1 回 (H27: 1 回) (○) ・生徒向け学校教育自己診断「先生は協力して生徒指導に当たっている」の肯定感 4.4%減少して 54.0% (H27: 58.5%) (△) 【課題】次年度以降も現在の生徒指導体制を継続・進化させるため、キャンペーン指導週間の設定などの工夫を行っていく必要がある。</p>
	(2) クラス活動で鍛える	<p>(2) クラスで鍛える ア. 年間ホームルーム計画を作成し、ホームルーム活動を活性化させる。 イ. 遠足・体育祭・文化祭という行事を中心に担任間の連携を強化し、クラス活動の活性化を図る。 ウ. 保健部が中心となり毎日の清掃等の徹底を図る。</p>	<p>(2) クラスで鍛える ・生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇 (H27: 61.6%)</p>	<p>(2) クラスで鍛える 体育祭や文化祭におけるクラスの催しはレベルが向上してきた。生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感 10.6%減少して 51.1%であった (H27 は 61.6%) (△) 【課題】ホームルーム活動と生徒会活動の連携をはかるため、生徒の委員会活動を活発化していく必要がある。</p>
	(3) 生徒会活動で鍛える	<p>(3) 生徒会活動で鍛える ア. 体育祭・文化祭・学校説明会などで生徒会の役割を増やし、生徒会の強化を行う。 イ. 体育祭や文化祭等の学校行事を一層活性化して、生徒の学校行事における自己達成感を高める。 ウ. 朝の挨拶運動、生徒会通信の発行等を恒常的にを行い、生徒会活動の活性化を行う。</p>	<p>(3) 生徒会活動で鍛える ・生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇 (H27: 58.8%)</p>	<p>(3) 生徒会活動で鍛える 生徒会新聞(壁新聞)を毎月発行し、生徒会役員選挙では複数の立候補者が争い落選者が出るまでになった。しかし、生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感 12.7%減少して 46.1%であった。(H27 は 58.8%) (△) 【課題】生徒会活動は年々活性化している。今後もこの流れを継続し、生徒の自主的な活動を育てていきたい。</p>
	(4) クラブ活動で鍛える	<p>(4) クラブ活動で鍛える ア. クラブ活動に関する情報の発信や体験入部等の工夫を通じて 1 年生の新規加入はもちろん年度途中の入部者を増やすことで、加入率の増加をめざす。</p>	<p>(4) クラブ活動で鍛える ・加入率 45%以上 (H27: 42.3%) ・生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇 (H27: 62.1%)</p>	<p>(4) クラブ活動で鍛える ・情報発信や体験入部等の工夫によって、部活動加入率は 43.2%に上昇した。(H27: 42.3%) (○) しかし、生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感 4.2%減少して 57.9%であった。(H27 は 62.1%) (△) 【課題】生徒向け学校教育自己診断の結果は減少したが、地域貢献同好会ができるなど、部活動は年々活性化している。しかし、加入率はまだ低い水準にとどまったままである。新入生勧誘に力を入れるなど新たな対策が必要である。</p>
	(5) 地域貢献で鍛える	<p>(5) 系列やクラブ・生徒会で地域貢献 ア. 枚岡中学校区及び縄手北中学校区地域教育協議会との連携を深め、秋の地域交流の企画に積極的に参加する。 イ. 福祉・保育系列や農と自然系列を中心に旭町子育て支援センターや近隣の幼稚園・保育所との交流を促進し、地域への貢献を果たす。 ウ. 農と自然系列を中心に瓢箪山地域まちづくり協議会との連携を深め、地域への貢献を果たす。 エ. クラブや生徒会が中心となって、平成 21 年度より開始した地域一斉清掃を瓢箪山地域まちづくり協議会と連携しながら推進し、地域への貢献を果たす。</p>	<p>(5) 系列で地域貢献 ア～ウ. 地域連携の回数の増加 (H27: 105 回) ・新規の地域連携の回数 (H27: 11 回) ・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均3ポイント以上の上昇 (H27: 60.1%)</p>	<p>(5) 系列で地域貢献 ア～ウ. 地域連携の回数は 118 回 (生徒会 3、農と自然 34、工業デザイン 7、福祉保育 13、部活動 34、管理職 27) (H27: 105 回) (◎) ・新規の地域連携の回数は 15 回 (H27 は 11 回) (◎) ・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均は 10.5%減少して 49.6%であった。(H27 は 60.1%) (△) 【課題】生徒向け学校教育自己診断の結果は大きく減少したが、実際には地域連携は年々活発になっており、地元での本校に対する信頼度は確実に上昇している。生徒が地域の幼保小中学校園の児童生徒を教えるなどの企画を積極的にを行い、地域から信頼される学校づくりを進めていく。</p>

府立枚岡樟風高等学校

<p>3. 「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科</p>	<p>(1) 授業で鍛える</p> <p>(2) 6系列で鍛える</p>	<p>(1) 授業内容の充実で鍛える。 ア. 年2回授業アンケートを実施し、振り返りシートをもとに授業改善をめざす。 イ. 公開授業週間を通じて、教職員同士で授業観察を行い、授業観察シートを提出させる。 ウ. 管理職による授業観察と事後指導を丁寧に行う。 エ. パッケージ研修を行い、めざすべき授業の在り方を共有する。</p> <p>(2) 6系列で鍛える ア. 各系列とも①系列間のコラボレーション②地域連携③中高連携④高大連携等の形態のいずれかを実施し、生徒を鍛える場とする。 イ. 「探究」発表大会を充実させ、系列ごとの成果を次年度に継承する。 ウ. 系列に広報担当を設置し、系列での実践をホームページ等でリアルタイムで発信する。</p>	<p>(1) 授業力の向上 ア. 教員の授業振り返りシートの提出率の維持 (H27: 99.2%) イ. 教員の授業観察件数の増加 (H27: 63件) エ. 教員全体の研究授業の実施 (H27: 7回) 生徒向け学校教育自己診断の学習指導の平均3ポイント以上の上昇 (H26: 56.4%)</p> <p>(2) 系列の専門性と多様性の向上 ア. 左記①～④の実施回数 ① (H27: 4回) ② (H27: 105回) ③ (H27: 6回) ④ (H27: 18回)</p>	<p>(1) 授業力の向上 ア. 7月及び12月に授業アンケートを実施。授業振り返りシートの提出率は100%であった。(◎) イ. 教員の授業観察件数は昨年度の63件から96件に増加した。(◎) エ. 教員全体の研究授業は、パッケージ研修支援Ⅱの研究授業を含めて6回実施した。(H27: 7回) また、各教科代表1名による授業力向上委員会を創設し、各教科代表1名がアクティブ・ラーニングを実践した。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断の学習指導全体の肯定感の平均は56.4%から52.6%へ3.8%減少した。(△) 【課題】授業規律は確実に良くなったが、教員の授業力の向上は、引き続き本校の大きな課題である。今後も研修や授業研究を通じて教員の授業力向上を図っていく。</p> <p>(2) 系列の専門性と多様性の向上 ア. 左記①～④の実施回数 (○) ①系列間コラボレーション6回 (H27: 4回) ②地域連携118回 (H27: 105回) ③中高連携6回 (H27: 6回) ④高大連携8回 (H27: 18回) イ. 今年度新たに校内総合学科発表会を2月に実施した。 【課題】系列は本校の大きな特色であり、今後も新たな地域連携を開拓するとともに、中高連携や高大連携を活発に行い、専門性を高めていく。</p>
<p>4. 「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科</p>	<p>(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する</p> <p>(2) 人権教育で鍛える</p>	<p>(1) 学校経営推進費を活用してスーパー・インクルーシブ・ルームを創設し、「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する。 ア. 共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、総合学科生徒の人権教育を推進する。 イ. スーパー・インクルーシブ・ルームを活用しての教職員研修の実施 ウ. スーパー・インクルーシブ・ルームを活用してのアクティブ・ラーニングなどの授業実践。</p> <p>(2) 人権教育で鍛えて、安全で安心な学校づくりをめざす。 ア. 新入生のクラス開き・学年開きで共生推進教室の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。 イ. 人権HR計画に基づいて、同和問題や在日外国人問題、新しい人権問題などを人権HRで扱い、生徒の人権意識を高める。 イ. 日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで、配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験を積み、互いの理解の促進を図る。</p>	<p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える ア～ウ。 ・生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目平均の5ポイント以上の上昇 (H27: 58.6%) ・総合学科の卒業率の5ポイント上昇 (H27: 85.8%) ・共生推進教室の一斉授業の肯定感の上昇(新規) ・共生推進教室の企業就労100%の継続 (H27: 100%)</p> <p>(2) 人権教育で鍛える ア～ウ。 学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均の3ポイント以上の上昇 (H27: 61.2%)</p>	<p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える ア～ウ。 生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の肯定感平均は51.8%で6.8%減少した。(H27は58.6%) (△) ・学校経営推進費を活用してインクルーシブ・ルームを創設した。(◎) ・インクルーシブ・ルームを活用しての教職員研修を行った。(◎) ・総合学科の卒業率90.4% (H27は85.8%) (◎) ・共生推進教室3年生の企業就労100% (◎)。 【課題】インクルーシブ・ルームを有効に活用して、ユニバーサルデザインの授業実践など、インクルーシブ教育システムを構築していく。</p> <p>(2) 人権教育で鍛える ア～ウ。 生徒向け学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均は52.0%で9.3%減少した。(H27: 61.2%) (△) 【課題】3年間トータルの人権教育計画に基づいた人権ホームルームを展開して、障がい児者理解や同和問題、在日外国人問題など、さまざまな人権問題を取り上げ、生徒の人権意識を高めていく必要がある。</p>

府立枚岡樟風高等学校

<p>5. 「校内組織のシステム化と活性化」で教職員が躍動する総合学科</p>	<p>(1) 校内組織のシステム化と活性化</p>	<p>(1) 校内組織のシステム化と活性化 ア. 首席連絡会、学年主任会議、将来構想委員会、運営委員会、職員会議の連携を強化し、有機的に機能させる。また、教職員の意見のボトムアップに努め、各種会議と分掌・学年間が情報を共有して課題の解決にあたる。 イ. 首席を専従として中高連携や学校説明会などの広報関係、教職員研修などの研修関係の担当者とし、各分掌や各学年での副担の役割を見直して教職員の仕事の平準化を図る。</p>	<p>(1) 校内組織のシステム化と活性化 ア. イ. 教職員向け学校教育自己診断において、学校経営の肯定感平均の3ポイント以上の上昇 (H27: 54.6%) ・教職員向け学校教育自己診断において、校長の学校経営理念の明確化やリーダーシップの発揮に関する肯定感の3ポイント以上の上昇(H27:80.4%) ・学校教育自己診断の保護者の提出率の3ポイント以上の上昇(H27: 40.8%)</p>	<p>(1) 校内組織のシステム化と活性化 ア. イ. 教職員向け学校教育自己診断における学校経営の肯定感平均は56.5%で1.9%上昇した。(H27は54.6%) (○) ・教職員向け学校教育自己診断において、校長の学校経営理念の明確化やリーダーシップの発揮に関する肯定感78.7%で1.7%減少した。(H27は80.4%) (△) ・学校教育自己診断の保護者の提出率は49.4%で8.6%上昇した。(H27は40.8%) (◎) 【課題】教職員の仕事の平準化を進めるとともに、各種会議の連携を強化して、教職員が意欲的に取り組める環境を構築していく必要がある。</p>
---	---------------------------	---	--	---